

# 神戸から世界の海へ



## 企画展

# 神戸における海技者教育 100年の歩み

神戸大学大学院海事科学研究科・海事科学部100年の変遷

- 大正 6年 (1917) ▶ 私立川崎商船学校設立
- 大正 9年 (1920) ▶ 神戸高等商船学校創立
- 昭和 20年 (1945) ▶ 海技専門学院創設
- 昭和 27年 (1952) ▶ 神戸商船大学設置
- 平成 15年 (2003) ▶ 神戸大学と統合し海事科学部、大学院海事科学研究科設置 (平成 19年)

2017

7.14 ▶ 10.31

■主催：神戸大学海事博物館 ■協力：一般社団法人 海洋会

来館のご案内とアクセス

■開館日：月・水・金の13:30~16:00 (祝日を除く)  
 ただし、8/10(木)~8/22(火)は休館

見学のお問い合わせ・連絡先

博物館事務室(開館時のみ) Tel.078-431-3564

<http://www.museum.maritime.kobe-u.ac.jp>



阪神電車を利用される場合  
 深江駅から南西へ  
 徒歩約10分  
 ◀左記地図を参照

## ごあいさつ

嘉永6(1853)年6月、ペリー艦隊の浦賀来航を契機に江戸幕府は欧米諸国との歴然たる格差に直面し、西洋型船の建造技術導入など我国海運の近代化に向けて一大転換を図ります。

慶応3(1867)年12月には兵庫が開港し、翌、慶応4(1868)年9月8日に元号が明治へと改まります。維新以来、大型商船の需要が急激に高まる中、西洋型商船を操ることができる海技者(商船士官)は皆無に近く、高級船員の大半を外国人が占め、日本人が下働きをする時代が続きます。日本の近代化がすさまじい勢いで進展する中、明治40(1907)年9月には神戸の築港が始まります。大正3(1914)年に第一次世界大戦が勃発し連合国側の日本は造船や海運部門で大躍進を遂げますが、急増する邦船船腹量に見合う数の商船士官の不足を危惧します。このような時代背景とともに海技者教育が神戸でいよいよ幕を開け本格化します。

神戸大学深江キャンパスは大正6(1917)年9月に設立が認可された私立川崎商船学校にその端を発します。川崎造船所の創立者である川崎正藏翁は『四面環海の我が国は海運の発展によって台頭する』と唱え、その遺志を継いだ嗣子の川崎芳太郎氏により兵庫県武庫郡本庄村深江の浜に商船学校が誕生し、翌大正7(1918)年3月に第1期生50人が入学します。その2年後の大正9(1920)年8月には国家に献納され、我が国で第2番目の官立商船学校として神戸高等商船学校が発足、同年11月に第1期生59人が入学して修業年限5年半の海技者(士官)教育が始まります。3年後の大正12(1923)年12月9日に練習船進徳丸(2,518総トン)が進水し、翌年2月25日に竣工、5月26日には処女航海へと神戸を出帆、米国のSan PedroとHonoluluに寄港、12,350海里を走破して10月11日、神戸に帰港しています。

爾来、大正14(1925)年に東京商船学校から改称の東京高等商船学校と肩を並べ、資源に乏しい日本の生命線を維持するために共に数多くの商船士官を輩出して国の発展に貢献してきました。その後、戦中・戦後の混乱期を経て、昭和27(1952)年5月、国立大学設置法の一部を改正する法律により神戸商船大学がこの伝統の地に誕生し、同年7月には第1期生120人が入学して新制大学が始動します。平成15(2003)年10月1日には神戸大学と統合して神戸大学海事科学部が発足、さらに平成19(2007)年4月には大学院海事科学研究科が設置されて現在に至ります。平成29(2017)年はこの深江の地で始まった海技者教育が100年を迎えますことから、この企画展では私立川崎商船学校に始まり、神戸高等商船学校、神戸商船大学を経て神戸大学大学院海事科学研究科・海事科学部に至る海技者教育のあゆみを紹介します。また、国際貿易港として日本を代表する港町『神戸』は今年、開港150年を迎えます。近代から現代にかけての両者の関わりもあわせてご覧ください。

海事博物館長 矢野 吉治



## 神戸大学 海事博物館

海と船の過去、今、夢ある未来が詰まった博物館

### 来館のご案内とアクセス

■開館日: 月・水・金の13:30~16:00(祝日を除く)  
ただし、8/10(木)~8/22(火)は休館

### 見学のお問い合わせ・連絡先

博物館事務室(開館時のみ) Tel.078-431-3564

<http://www.museum.maritime.kobe-u.ac.jp>



阪神電車を利用される場合

深江駅から南西へ徒歩約10分

▲上記地図をご参照

### 巡回展(六甲台キャンパス)のお知らせ

神戸大学百年記念館

2017 11.17 Fri ▶ 2018 1.31 Wed

神戸大学社会科学系図書館

2018 3.9 Fri ▶ 4.6 Fri

主催: 神戸大学海事博物館 ■ 協力: 一般社団法人 海洋会



神戸大学海事科学部創設100周年



PORT OF KOBE

## 神戸から世界の海へ



企画展

## 神戸における海技者教育 100年の歩み

2017  
7.14 ▶ 10.31



神戸大学  
海事博物館

海と船の過去、今、夢ある未来が詰まった博物館

# 神戸における海技者教育 100年の歩み 企画展ご案内

## Zone 1

### 学舎

川崎商船学校に始まるわが国2番目の官立商船学校である神戸高等商船学校は正面に時計台(气象台)を抱いた姿が印象的でした。商船士官教育の殿堂として戦前から現在にいたるまで「深江」(の商船学校・大学)と親しみを込めて呼ばれています。



神戸高等商船学校本館模型

## Zone 2

### 年表

—川崎商船学校から神戸大学まで—

深江の地に創設された私立川崎商船学校から神戸高等商船学校、神戸商船大学を経て現在の神戸大学に至る変遷を海運界と造船界、神戸と日本や世界の動きなどの時代背景とともに紹介します。

## Zone 3

### 川崎商船学校、神戸高等商船学校、 神戸商船大学、神戸大学

晴れの商船士官を目指して厳しい訓練や実習とともに無冠の外交官としての紳士教育をも学び、七つの海へ巣立って行った若者たちの生活がここにありました。

## Zone 4

### 創立期

明治時代、海港都市「神戸」の発展を背景として神戸における海技者教育が始まります。川崎正藏以来、川崎商船学校の設立、神戸高等商船学校の発足という三代にわたる創立期の事績と背景を紹介します。

#### 川崎三代



川崎正藏



川崎芳太郎



川崎武之助

#### 歴代校長



伊東治三郎



藤井治三郎



永田泰次郎



小関三平



吉利 巖



篠崎認三

敬称略

## Zone 5

### 練習船 進徳丸

進徳丸は大正12(1923)年12月9日に三菱造船(株)神戸造船所で進水し、翌年5月26日には北米サンペドロ向け処女航海へと神戸を出帆しました。爾来、昭和16(1941)年8月の第34次航に至る18年のあいだ訓練航海に従事しています。戦前・戦後を通じて幾多の船舶職員が世界の海へと巣立ちました。

## Zone 6

### 沿革年表

大正6(1917)年から現在まで、神戸における海技者教育の沿革をご覧ください。

#### 歴代学長



大羽真治



小谷信市



小田義士



平 勇登



後藤清市



南正己



松本吉春



前田文郎



井上篤次郎



原 潔

## Zone 7

### アーカイブ

深江キャンパスにおいて展開される様々な研究活動の一部や研究のトピックスを中心にパネル等で紹介します。また、神戸大学サテライト巡回展を期限付きで相互に開催します。

